

# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市中央区城見1-2-27 クリスタルタワー16F	氏名	アートコーポレーション(株) 代表取締役 寺田 千代乃
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>【引越事業】引越及びそれに付帯する各種役務の提供に関する事業</p> <p>【輸入車販売事業】自動車の輸入販売及び車輛のメンテナンスに関する事業</p> <p>【国内物流事業】国内におけるトラック輸送に関する事業</p> <p>【物販事業】家電製品の小売に関する事業</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	1,692 t-CO <sub>2</sub>	1,669 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	1,732 t-CO <sub>2</sub>	1,701 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	8 %	24.4 %	14.2 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	24.1 %	14.6 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (売上高)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>当社は専ら引越部門を中心に事業活動を行っており毎年<b>106%</b>の事業拡大(売上高)を計画しております。売上高で原単位ベースの目標削減を掲げさせていただきました。自動車からの温室効果ガスの排出を削減する為、年式<b>13</b>年以上の車両<b>129</b>台を廃棄し、新規購入で燃費基準達成車の導入を<b>119</b>台購入し、エコドライブ及び効率化輸送(デジタコ導入)により、排出量を前年対比<b>103%</b>に抑えCO<sub>2</sub>の削減を図ります。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<p>1、引越部門では燃料費の削減を掲げ、輸送の効率化及びアイドリングストップ等を推進する。</p> <p>2、排ガス規制による代替及び増車は燃費の良い車輛を積極的に導入していきいます。</p> <p>3、輸送の効率化を図る為に高効率車輛の導入を検討をしていきます。</p> <p>4、燃費の使用実態を毎月算出して開示、燃料費削減の指標にする。</p>
--

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (1126) 消灯の適正化	・こまめに照明設備のスイッチをオフする。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (1122) 空調温度の適正化	冷房温度28℃、暖房温度20℃の迎行	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (2121) 低燃費車の導入	排ガス規制対応に伴い低排出車及び低燃費車の導入	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (2123) エコドライブの推進	アイドリングストップ等のエコ運転の推進	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全事業所	コード (2126) 輸送の効率化	輸送の効率化を図る為に高効率車輛の導入を検討	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	東京都千代田区紀尾井町1-3 東京ガーデンテラス紀尾井町 紀尾井タ	氏名	株式会社IDCフロンティア 代表取締役社長 志立 正嗣
特定事業者の主たる業種		40インターネット附随サービス業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		クラウドコンピューティング事業 ・ データセンター事業  首都圏、東日本、西日本で大規模データセンターを運用し、ネットワークセキュリティや運用監視を含む高品質のデータセンターソリューション、クラウドコンピューティングおよびストレージサービスを提供。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	5,127 t-CO <sub>2</sub>	4,738 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,544 t-CO <sub>2</sub>	5,126 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	4 %	7.6 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	4 %	7.6 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

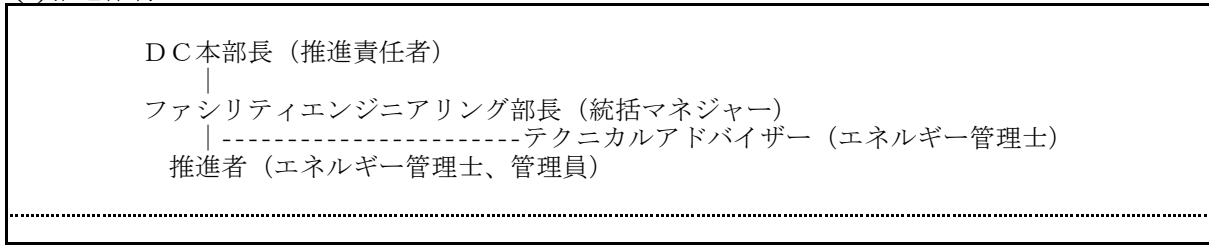
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

設備の更改による高効率化やクラウド環境への巻取りによるサーバ電力削減を推進し、温室効果ガス総排出量の削減に努めた。また、昨年に引き続き照明の減灯、エレベータの運転制限、空調機の保守・運転管理を徹底するとともに、空調室外機に設置した水噴霧装置の動作設定の変更により最も省エネ効果の高い設定を見つけ出し、運用を最適化したことが要因と考えられる。	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制



(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	大阪吹田データセンター	コード (1114) 空調機の高効率運転	空調機室外機フィンと室内機フィルタの洗浄時期を管理して、高い放熱効率と冷房効率を維持する。空調機整備点検を的確に実施し、正常運転状態の維持、高効率運転に努める。	27 年度
	レ 人工排熱				29 年度
	平準化				
2	レ GHG排出	大阪吹田データセンター	コード (1112) 空調機の運転状態把握	空調機の運転状況と室温を毎日確認して、過冷却のないよう空調機設定温度、運転台数を適宜、変更して適性運転に努める。	27 年度
	レ 人工排熱				29 年度
	平準化				
3	レ GHG排出	大阪吹田データセンター	コード (1113) 換気装置の運転管理	外気温度が高い夏場の外熱負荷を低減するため、日中の換気を停止し、夜間に換気する。冬季は外気導入を増やして空調機消費電力を低減する。	27 年度
	レ 人工排熱				29 年度
	平準化				
4	レ GHG排出	大阪吹田データセンター	コード (1299) 水噴霧装置の設置、運用	空調室外機に水噴霧装置を設置し、運用して空調機の運転効率を上げる。	27 年度
	レ 人工排熱				29 年度
	平準化				
5	レ GHG排出	大阪吹田データセンター	コード (1218) 無人時消灯の徹底	館内巡回を定期的に行い、不用灯の消灯を徹底して消費電力低減に努める。	27 年度
	レ 人工排熱				29 年度
	平準化				
6	レ GHG排出	大阪吹田データセンター	コード (1199) 省エネ啓蒙活動	・エレベータ利用の制限（原則、荷物運搬時だけの利用） ・消灯の徹底。 ・会議室エアコン管理（OFF徹底） ・エアコン設定温度管理。	27 年度
	レ 人工排熱				29 年度
	平準化				
7	レ GHG排出	大阪吹田データセンター	コード (5221) 高効率UPSの導入	UPSを高効率のものに変更し、電力の損失を軽減する。	27 年度
	レ 人工排熱				29 年度
	平準化				
8	レ GHG排出	大阪吹田データセンター	コード (1199) クラウド環境への巻取り	現在サーバを使用しているサービスをクラウド環境に巻き取ることで、サーバの消費電力を軽減する。	27 年度
	レ 人工排熱				29 年度
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出		コード		年度
	レ 人工排熱				～
	平準化				年度

**(3)**その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	東京都中央区日本橋 3-12-2 朝日ビルヂング7F	氏名	株式会社 アクティオ 代表取締役 小沼 直人
特定事業者の主たる業種		70物品賃貸業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		建設機械のレンタル、リース等		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	1,878 t-CO <sub>2</sub>	2,353 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	1,917 t-CO <sub>2</sub>	2,390 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3.2 %	32.6 %	25.6 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	32.9 %	26 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( レンタル売上 )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
○基準1878 t / 32 = 58.69	○前2139 t / 54 = 39.61      (58.69 - 39.61) / 37 × 100 = 51.54

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

古いディーゼル車を廃車し、新しい車への代替を推進している。
-------------------------------

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

温暖化対策を効果的に推進する為に責任者、担当者を選定、設置し、社内会議の際に話合いの場を設けマニュアルを作成し各部所に教育、指導を行っていく。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪府下全部	コード (1111) 冷暖房器具の 適正な使用管理	冷暖房器具の温度は政府の推奨する設定 温度を基準に各部所の設定温度を決めて いく。また、クールビズ、ウォームビズ の徹底を行う。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	高石工場	コード (1114) 設備用電源の 適正使用	配電線路を見直し配電電圧の適正化を図り 配電損失を削減する。また管理者、担 当者を選任し徹底した保守、管理を行 う。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪府下全部	コード (2114) レンタカーの 適正管理	レンタカーの保有台数を見直し必要最低 限の台数で運用する。また、不具合車両 など不要車両の減車を迅速に行う。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
2	レ	GHG排出	大阪府下全部	コード (2122) 公共の交通機 関の利用促進	営業担当者の現場打合せ、会議、営業活 動を行う際出来るだけ公共の交通機関を 利用する。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
3	レ	GHG排出	大阪府下全部	コード (2113) 輸送の見直し	すべての輸送予定を管理し、合い積み等 を増やし輸送便が走る本数を削減する。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
4	レ	GHG排出	大阪府下全部	コード (2114) レンタカーの 維持管理	レンタカーの適正な維持、管理を行い燃 費の向上に努める。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

		大阪府堺市堺区戎島町4-45-1 ホテル・アゴラー・リージョン堺	氏名	株式会社アゴラー・ホテルマネジメント堺 代表取締役 佐藤 暢樹
特定事業者の主たる業種		75宿泊業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ホテル業（客室241室・レストラン5店舗・宴会場17室・会員制ヘルスクラブ）、テナント業（貸し事務所・店舗）、貸し駐車場業を営んでいます。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	5,547 t-CO <sub>2</sub>	5,671 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,033 t-CO <sub>2</sub>	5,995 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	-1.1 %	-2.3 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	1.3 %	0.7 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

テナントの新規入居+64,000Kw並びに昨年度9月の残暑による冷房電気使用量+62,000Kwの増加で平成26年度比2%の削減ができなかった。	
--	--



◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

1. 毎朝の各部門の責任者会議で照明・ファンコイル消し忘れの部署を指摘して省エネ推進を進めている。 2. 1回/月、各部門の電気、ガス、水道月間使用量を部門責任者に報告して使用量増加部署については原因調査並びに削減喚起を行っている。 3. エアコン、厨房機器、客室他家電製品の更新時はトップランナー製品の導入を行っている。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	ホテル・アコーラ リゾート 豊洲 堺	コード (1218)	従業員、厨房、オフィステナントの蛍光灯をLEDタイプに変更を行い電気使用量の削減。原油換算量-5.5Kl/年。	29 年度 ~ 30 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	ホテル・アコーラ リゾート 豊洲 堺	コード (1218)	中華レストラン客席照明 (ハロゲン、シャンデリア球) をLEDタイプに変更を行い電気使用量の削減。原油換算量-0.2Kl/年。	29 年度 ~ 30 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	ホテル・アコーラ リゾート 豊洲 堺	コード (5999)	1. 平日の昼間は客用エレベーター4台のうち1台停止中。 2. 夜間の従業員エレベーター4台の内1台を停止中。⇒いずれも実施中。	29 年度 ~ 30 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	ホテル・アコーラ リゾート 豊洲 堺	コード (5999)	平日昼間の電気使用量増加時 (契約電力超過の恐れがある場合) 電気式冷凍機 (580USRT) を停止してガス式冷温水発生器 (612USRT) に切り替えピーク電力使用量の削減⇒実施中。	29 年度 ~ 30 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	ホテル・アコーラ リゾート 豊洲 堺	コード (1218)	客用、従業員スペースの不用照明の消灯。⇒実施中。	29 年度 ~ 30 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	ホテル・アコーラ リゾート 豊洲 堺	コード (1121)	余剰容量の6トン炉筒煙管式ボイラー2台を適正容量の2トン貫流ボイラー4台に更新してガス使用量の削減。原油換算量-98Kl/年。⇒計画中。	30 年度 ~ 31 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	ホテル・アコーラ リゾート 豊洲 堺	コード (1216)	平日は地下駐車場の給排気ファン、デリバントファンの部分停止、間欠運転を行っている。	29 年度 ~ 30 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
8	レ GHG排出	ホテル・アコーラ リゾート 豊洲 堺	コード (1216)	コージェネ室2台の内1台を機器に影響が無い範囲で停止している。	29 年度 ~ 30 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出		コード		年度 ~ 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市堺区今池町3丁3番16号	氏名	公益財団法人 浅香山病院 理事長 高橋 明
特定事業者の主たる業種		83医療業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		医療業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	7,233 t-CO <sub>2</sub>	7,445 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	7,661 t-CO <sub>2</sub>	7,849 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	-1.48 %	-3 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-1.2 %	-2.5 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>夏場の気温上昇により、エアコンの使用量が増加した。H28年度最後の月で、一部の建物にLED電球の導入を行なったが、その効果が期待できるのはH29年度になる予定。省エネラウンド(職場訪問)も夏には実施し省エネの呼びかけを行なった。例年どおり、クールビズ実施。</p>
---

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

エアコン設定で適温を呼びかけを行なっていきます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (1113) 運転管理	ECOISによる気象状況の変動に応じた熱源器の最適運転	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (1112) エネルギー使用の可視化	総合エネルギーサービスECOISによるエネルギー使用の可視化及び導入済BEMSデータの活用	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	全事業所	コード (1113) ボイラーガス使用量最適化	ECOISによる給水・給湯使用量の削減に伴うボイラーガス使用量の抑制	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全事業所	コード (1213) COS運用最適化	ECOISによるエネルギー、給湯負荷の可視化、BMSデータ活用によるコージェネレーション運用最適化	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	全事業所	コード (1113) AHUの最適化	ECOISによるエネルギーの可視化によるAHUの運転時間、台数の緩和	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	全事業所	コード (1111) 病棟スタッフの省エネ啓蒙	運転の良し悪しにより、金額ベースでエネルギー使用量がどの程度上下するのか啓蒙（具体的な運用アドバイス等）	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	全事業所	コード (1218) LED電球導入	LED電球導入	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	公益財団法人浅香山病院	コード (2123) エコドライブ推進	全車エコドライブ（アイドリングストップ）を推進 年間0.05 t-CO2を削減予定	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	公益財団法人浅香山病院	コード (2122) 公共交通機関利用を推進	時間・距離等を考え自転車・公共交通機関の利用を推進	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

**(3)**その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪狭山市東池尻4-1402-1	氏名	株式会社浅野歯車工作所 取締役社長 倉長勇太郎
特定事業者の主たる業種		31輸送用機械器具製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		輸送用機器の歯車・アクスルの設計から製造までの事業活動を行っております。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	25,837 t-CO <sub>2</sub>	25,289 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	27,609 t-CO <sub>2</sub>	27,146 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	10.6 %	2.2 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	10.8 %	1.7 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>第2年度は2.2%に留まりましたが、今後も一層の環境配慮行動の実施を進めてまいります。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

当社は、環境マネジメントシステムIS014001を認証取得しており取締役社長を推進体制の長とし定期的に環境委員会を開催し省エネ活動を進めております。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	株式会社浅野歯車工作所	コード (4210) 工場負荷低減	工場屋根高日射反射塗料により空調負荷低減。2016年5月対策済み。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	株式会社浅野歯車工作所	コード (1113) 熱処理炉空焚き時間低減	熱処理炉空焚き時、ガス使用量を低減。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	株式会社浅野歯車工作所	コード (1113) 待機電力の低減	生産ライン非稼働時、元電源を停止し待機電力を低減。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4		GHG排出	株式会社浅野歯車工作所	コード (1113) 夏季最大電力の抑制	夏季空調使用時、最大電力の抑制	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	株式会社浅野歯車工作所	コード (1113) 設備待機時、油圧モータを自動停止	休憩時間帯、油圧モータを自動停止させ消費電力を低減。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	株式会社浅野歯車工作所	コード (1218) 高効率照明器具の採用	更新時にLED照明器具を採用する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	株式会社浅野歯車工作所	コード (1121) 熱処理炉更新	熱処理炉老朽化更新によるエネルギー消費量低減	28 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	株式会社浅野歯車工作所	コード (2121) エコカーの導入	エコカー導入による温室効果ガスの排出低減。16台中7台がエコカー導入済み。残り9台も更新時にエコカーの導入を進める。	28 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワーウエスト 29F	氏名	アサヒ飲料販売株式会社 代表取締役 社長 清水 伴尚
特定事業者の主たる業種		58飲食料品小売業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に自動販売機による清涼飲料水の販売を行っている。営業拠点は全国で30支店あり、うち、大阪府内では7支店で営業活動を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	914 t-CO <sub>2</sub>	767 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	932 t-CO <sub>2</sub>	0 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ 削減率(排出量ベース)	3 %	-4.4 %	16.1 %	0 %
	削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		- %	-4.3 %	0 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>車両入替時における低公害車の採用。エコドライブの推進。</p>
------------------------------------



◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

--

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	全ての事業 所	コード (1112) エネルギーの 使用に関する データ管理	全支店の電気使用量を把握する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	全ての事業 所	コード (1112) 運転管理	支店倉庫の昼間消灯・蛍光灯間引き・ クールビズ・ウォームビズの促進等、節 電を推進する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	全ての事業 所	コード (2112) エネルギーの 使用に関する データ管理	全支店の全車両の走行距離及び給油量を 把握する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	全ての事業 所	コード (2123) エコドライブ の推進	全支店の全車両がエコドライブを実施す る。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
3	レ GHG排出	大阪支店	コード (2121) 低燃費車の導 入等	平成18年7月に導入した天然ガス (CNG) 自動車1台を再リースし、継続 使用。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市中央区南本町4-5-10	氏名	朝日ウッドテック株式会社 代表取締役社長 海堀 哲也
特定事業者の主たる業種		12木材・木製品製造業（家具を除く）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に住宅内装用の木質建材（床材・階段他）の製造・販売を行っています。大阪府内には本社が大阪市中央区に、生産拠点が忠岡町、岸和田市、和泉市にあります。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	12,235 t-CO <sub>2</sub>	12,596 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	13,535 t-CO <sub>2</sub>	13,841 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3.6 %	-5.1 %	-3.2 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-4.7 %	-2.5 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (出荷m <sup>3</sup> 数)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>生産量は平成26年度とほぼ同じですが、電力・都市ガス使用量が多くなったため温室効果ガス排出量は増える結果となりました。これは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 通常品より電力を多く使用して生産する商品比率が高くなった(前期比13%増)</li> <li>② 電力使用比率の高い生産ラインの生産方式が変わり、生産効率が悪くなった</li> <li>③ 一昨年より冬場の冷え込みが強く、都市ガスボイラーの使用比率が高くなった(前期比62%増)</li> </ul> <p>以上、3点が考えられます。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

前期に引き続き、全社統括環境管理責任者の下、全体のエネルギー使用量(原単位)の削減活動を管理・支援していきます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	全工場	コード (1112) デマンド監視 装置の導入と 使用量の見える 化	電気使用量をリアルタイムで監視するデ マンド監視装置を導入し、ピーク電力の カット等の対策、従業員へのこまめな節 電の意識付けを強化する	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全工場	コード (1225) 生態系保全に 配慮した木材 等の使用	森林認証材、植林木、パーティクルボ ード等の環境に配慮した基材を使用した製 品を生産する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	TS工場	コード (1218) LED照明の 導入	工場内の天井灯・ライン照明を蛍光灯や 白熱灯から順次LEDに置き換える。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	忠岡工場	コード (1126) コンプレッ サー台数制御	コンプレッサーを台数制御にする	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市中央区南本町1-8-14	氏名	朝日加工株式会社 代表取締役社長 小河原 正幸
特定事業者の主たる業種		11繊維工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		各種繊維製品の染色、防水、漂白、縫製及びこれに付帯する加工販売、ならびに環境・省エネ機器、繊維機器、合成加工機器ならびに付属品、部分品の製造販売を行っており、大阪府内に工場が1ヶ所ある。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	6,478 t-CO <sub>2</sub>	7,180 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,523 t-CO <sub>2</sub>	7,238 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3.1 %	0.9 %	-2.5 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	1 %	-2.6 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 生産数量 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>長繊維部門(生産工程が少なくエネルギー原単位が低い)の生産が2%減少、短繊維部門(生産工程が多くエネルギー原単位が高い)の生産が8%増加したためにエネルギー原単位はたかくなった。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

工場長を委員長とする省エネルギー委員会を毎月1回開き、対策の結果報告、現状改善などを検討しており、本体制を継続していきます。電気の需要の平準化は昼間の買電電力を160kw/h一定にし、負荷の変動をコージェネ発電で対応する。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	阪和工場	コード (1125) 乾燥シリンダー-圧力調整8台	過乾燥を防ぐために圧力を調整する (71 t-CO2削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	阪和工場	コード (1123) ドレン回収配管変更	ドレン回収配管を変更してボイラ-給水温度を上げる (51 t-CO2削減) 27年度完了	27 年度 ～ 27 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	阪和工場	コード (1212) テナー1号乾燥室変更	効率のよい乾燥室に変更する (41 t-CO2削減) 28年度完了	27 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	阪和工場	コード (1125) ボイラ-室配管保温	配管、バルブ等の保温 (24 t-CO2削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	阪和工場	コード (1123) コージェネ設備の熱回収配管変更	給水配管を変更して温度の低い給水を、コージェネ設備の熱交換器を通し熱回収の効率を上げる (14 t-CO2削減) 27年度完了	27 年度 ～ 27 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	阪和工場	コード (1299) UBR水洗槽設置	高効率の水洗槽により水洗の回数を少なくして水の使用量を減少させ、蒸気の使用量を減少させる。(63 t-CO2削減) 28年度完了	28 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	阪和工場	コード (1299) 真空脱水機設置	乾燥入り口で生地に含まれる水分少なくして乾燥用蒸気の使用量を減らす。 (63 t-CO2削減)	29 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	阪和工場	コード (1218) 照明設備変更	倉庫の水銀灯(27個)をLED照明に交換 (7 t-CO2削減)	29 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市西区鳳東町 6丁570番地1	氏名	旭精工株式会社 代表取締役社長 清水 明彦
特定事業者の主たる業種		24金属製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		インサート軸受ユニット製造販売及び、エアークラッチ、エアーブレーキ、直線運動機器といった精機商品の製造販売も行っており、日本全国で本社工場、9支社の事業所があり、うち、大阪府には、本社工場、1支社の事業所となっております。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	3,729 t-CO <sub>2</sub>	3,723 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,204 t-CO <sub>2</sub>	4,183 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (26 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	4.6 %	3.6 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	4.8 %	4 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (ベアリング付加価値生産高)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
ベアリング付加価値生産高とは、売価変動を受けにくい単価を基準とした生産高から材料費や外注費等の外部費用を除いたもの	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

平成28年度においては、温室効果ガス排出量は基準年度とほぼ同じになり、原単位ベースで前年度を下回るも3.6%の削減ができました。前年度同様、省エネ、保全パトロール、製造部全体での会議等を実施し、各部門に指導強化等の取り組みも引き続き行っております。 また、前年度より見える化運動を実施しており生産効率の向上に大いに貢献できているものと考えております。こういった活動を引き続き行い、省エネ、温室効果ガス削減につなげていきたいと考えます
---

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

環境マネジメントシステム（ISO事務局）での活動
--------------------------

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	全ての 事業所	コード(1113) 空調機の 運用改善	空調機の温度設定、使用時間等を 定めて管理する 平成28年度 月1回の省エネパトロールの実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	全ての 事業所	コード(1218) 照明の 無駄排除	必要時以外の照明等の消灯 平成28年度 月1回の省エネパトロールの実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
3	レ GHG排出	本社工場	コード(1215) 生産設備の 更新	省エネ、高効率タイプの新規設備導入 平成28年度 生産設備更新(5台)	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
4	レ GHG排出	本社工場	コード(1114) 機械設備 定期保全	現行機械設備の定期的な保全活動 平成28年度 月1回の保全パトロールの実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
5	レ GHG排出	本社工場	コード(1114) コンプレッサー 有効活用	エア漏れ、改善、配管経路変更等による 圧損の改善 平成28年度 エア漏れ修理(20件) コンプレッサーオーバーホール(1件)	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
6	レ GHG排出	本社工場	コード(1216) 空調機の更新	省エネ、高効率タイプの空調機の導入 平成28年度 空調機更新(1台)	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		～ 年度
	人工排熱				

(3) その他の抑制対策




# 実績報告書

届出者	住所	大阪府八尾市太田9丁目37番地	氏名	アサヒセイレン株式会社 代表取締役 谷山佳史
特定事業者の主たる業種		23非鉄金属製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		アルミニウム鋳物およびダイカスト用などの合金地金（再生塊）の製造・販売、製鋼用フラックス（アルミ灰）の製造・販売、またアルミニウムスクラップの転売などの事業活動を実施し、「アルミニウムリサイクル総合メーカー」として、あらゆる資源（人・物・金・技術・環境）の再生の実現を目指している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	28,101 t-CO <sub>2</sub>	25,012 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	28,877 t-CO <sub>2</sub>	25,723 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	3 %	-4.4 %	-1.8 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-4.4 %	-1.9 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (A1二次合金地金製造に関与する生産数:)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>平成28年度は平成26年度に比べ生産量が13%減産した。そのため、溶解炉および加熱炉が頻繁に停止しており、炉の昇温に必要なエネルギーが増加したため、原単位ベースで温室効果ガスの排出量が増加した。また環境対策のため、集塵機の稼働率が高くなっており、電力使用量も増加している。今後は、設備メンテナンス力の向上および生産性の更なる向上に取組み、エネルギー原単位の低減を推進していく。</p>
---

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

IS014001をベースとした環境改善（地球温暖化防止）活動を毎年実施しています。毎月開催される環境委員会にて対策実施事項及び課題の実施状況を環境管理責任者は評価し、1回/年実施するマネジメントレビュー（エネルギー管理統括者（環境管理統括者）である専務を中心に開催）、環境改善活動を報告し、対策事項が順調に進捗されているか課題は何かを定期的にレビューし、省エネルギー対策の充実を行っています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社工場	コード (1211) 溶解炉 生産 性向上	反射炉の生産性向上のため、①溶湯供給率の向上②原材料溶解作業の見直しなどを行い、日当りの生産量の目標を達成することができるようになった。	27 年度
		人工排熱				29 年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	本社工場	コード (1216) 高効率空調設 備への更新	工場内で使用している空調設備について、平成28年度、3台空調設備を更新した。	27 年度
		人工排熱				29 年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	本社工場	コード (1125) 溶解炉耐火物 改善	溶解炉で使用している扉（内側に耐火物があり）の損傷が確認されれば、扉の交換を実施、溶解炉からのエネルギーロスを低減させた。	27 年度
		人工排熱				29 年度
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業 所	コード (2121) 社用車更新時 には低燃費車 への更新	社用車更新時には低燃費車への更新を検討しており、平成28年度は更新はなし	27 年度
		人工排熱				29 年度
2	レ	GHG排出	全ての事業 所	コード (2123) エコドライブ の推進	社用車運転時のエコドライブの啓蒙活動を実施したが、効果は未確認。	27 年度
		人工排熱				29 年度

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市西区鳳東町6-616	氏名	朝日鑄工株式会社 代表取締役 平山 太一
特定事業者の主たる業種		22鉄鋼業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		水道用ダクタイル鑄鉄異形管の製造及び販売。鑄造、加工、塗装、梱包及び出荷まで行う。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	5,286 t-CO <sub>2</sub>	5,630 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,912 t-CO <sub>2</sub>	6,319 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	2.5 %	-3.4 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	2.4 %	-3.8 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>平成23年度を基準として、大型設備更新、省エネ設備の導入により、平成27年度まででおよそ10%の温室効果ガス削減を達成できたが、設備更新は完了し、その効果は無くなっている。そのような中で、製造する主力製品は肉厚が薄く、1個あたりの単重が軽い物に移り変わっており、原単位に生産量を設定しているので、同じだけの重量の製品を生産するのに必要なエネルギーが増えていることから、達成が難しい状況にある。</p>
---

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

工場長を委員長、エネルギー管理員を事務局とし、省エネ対策委員会を設けている。委員会では、全従業員への省エネ教育、改善活動、省エネ設備導入検討等を行う。委員会での活動内容は、社長への報告、社内掲示等により会社全体での意識向上に努める。

---

今後も一層の環境配慮活動の実施、省エネルギー型設備への代替を進め、目標とする基準年度費3%削減の達成に努める。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社	コード (1111) 省エネ委員会 による活動	省エネ委員会の活動により、効率的なエネルギー使用を推進している。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	本社	コード (1112) エネルギーの 使用量把握及 び解析	ガスの流量計による主要設備でのガス使用量の把握を継続しており、データ把握による解析を進める。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	本社	コード (1113) エネルギー消 費設備の運転 管理	インバーター内蔵型コンプレッサーを活用し、設備の稼働状況に応じて、コンプレッサーの運転台数を管理して操業している。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	本社	コード (1218) 照明設備の導 入	省エネ効果の高い照明設備に更新する。 (今後も継続して更新を行う)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	本社	コード (1299) エアガンの省 エネノズルの 導入	エアガンの省エネノズルについて、新規設置及び更新時に導入を行う。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社	コード (2113) 自動車の運用 管理	運転日報を作成し、運用状況を把握している。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	本社	コード (2123) エコドライブ の推進	配送業務に携わる運転手にエコドライブに関する教育を行い、エコドライブの実施に努めている。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	本社	コード (2227) 委託先活用 における配慮	省エネ及び環境に配慮した制度を導入している運送業者を優先して使用している。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

--



# 実績報告書

届出者	住所	大阪府吹田市西の庄町1番45号	氏名	アサヒビール株式会社吹田工場 統括工場長 三澤 博之
特定事業者の主たる業種		10飲料・たばこ・飼料製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ビール製造業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	36,536 t-CO <sub>2</sub>	38,684 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	37,048 t-CO <sub>2</sub>	39,474 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース)	3 %	2 %	8.1 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	1.5 %	7.5 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (製造量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>平成28年度の温室効果ガス排出原単位は、基準年である平成26年度と比較して8.1%減となった。平成28年度は、高効率冷凍機への更新が行われ、かつ製造量が過去最大量であったことから、原単位低減に大きく寄与した。平成29年度以降には、これまで試験中であったビールからの冷熱回収並びにビール加熱方法の見直しが定常化し、引き続き高効率冷凍機の導入も行われる予定であり、さらに原単位低減が期待できる。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

当社はエネルギー使用合理化に関する全体計画を作成し、計画的に推進しています。さらに定期的な省エネルギー委員会開催による省エネルギー推進も実施しております。また、ISO14001（環境マネジメントシステム）の認証取得後、継続的に維持しております。今後も本取組みを継続していく予定です。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	アサヒビール (株)吹田工場	コード (1212) 冷熱の有効利用	ビールからの冷熱回収および冷水製造への冷熱利用（冷凍機負荷低減） ▲423.5 kWh/年×0.522=221t-CO2 H29年より定常化。	28 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	アサヒビール (株)吹田工場	コード (1122) 効率的な加熱方法への転換	温水シャワーによる加熱からプレート式熱交換器を用いたビール加熱に変更することによる熱交換の効率化 ▲14,696GJ/年×0.0509=748t-CO2 H29年より定常化。	28 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	アサヒビール (株)吹田工場	コード (1122) 高効率冷凍機への更新	高効率冷凍機への更新。 ▲2,855GJ/年×0.0509=145t-CO2 H30前半に定常化予定。	29 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策

社有林「アサヒの森」によるCO2の固定（年間のCO2吸収量12,200トン）  
「アサヒスーパードライ」の製造へのグリーン電力の活用

# 実績報告書

届出者	住所	東京都中央区築地5-3-2	氏名	株式会社朝日プリンテック 代表取締役 尾形 俊三
特定事業者の主たる業種		15印刷・同関連業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に日刊新聞（朝日新聞）の印刷ならびに梱包を行っています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	3,908 t-CO <sub>2</sub>	4,132 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,197 t-CO <sub>2</sub>	4,417 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	-0.2 %	-5.8 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0.1 %	-5.3 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>空調関係機器の更新に合わせて能力増強を実施した為、ガス使用量が大きく上昇し、電力使用量も僅かに上昇したが、インバータ化を実施するなどして省エネルギーへの施策を実施している。</p>	
---	--



◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

環境委員会、事務局会議を定期的に開催し、ISO14001環境マネジメントシステムを確実に運用する現体制を継続していきます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	堺工場	コード (1111) ISO環境マネジメントシステム運用	ISO14001環境マネジメントシステムの運用によりエネルギー使用量の削減を行う (年間0.05t-CO2を削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	堺工場	コード (1113) 空調機及び冷温水機の停止	年間10日ある新聞休刊日の夜8時～翌9時までの13時間、工場内の必要の無い空調機及びガス冷温水機を停止する (年間18.55t-CO2を削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	堺工場	コード (1216) 空調機の更新	老朽化し効率が悪くなった空調機の更新。 (輪転空調機No.1、紙庫空調機、発送空調機、給紙空調機No.1、給紙空調機No.2)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	堺工場	コード (1216) 空調機のインバータ化	輪転空調機No.1を更新に伴いインバータ制御とする。新設した輪転No.3空調機をインバータ制御とする。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪市福島区福島1-1-30	氏名	朝日放送株式会社 代表取締役社長 脇阪 聡史
特定事業者の主たる業種		38放送業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		放送法による基幹放送事業および一般放送事業 他		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 0 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	8,840 t-CO <sub>2</sub>	8,689 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	9,746 t-CO <sub>2</sub>	9,592 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース) 0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース) 3 %	2.3 %	1.8 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	2.2 %	1.6 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (建物延べ床面積)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>空調設定温度について、平成22年度より継続して管理強化により適正な温度の維持に努めました。照明設備についても、事務エリアの調光照度設定を下げ、照明器具の一部をLED器具と取替える等の対応を実施しました。空調用熱源機器については、ガス式熱源機器と電気式熱源機器との併用運転を行い、基準年度より空調用ガス使用量を削減しています。また設備全般について、各施設の使用状況を把握し、不要な機器は停止するよう努めました。</p>
---

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

『エネルギー管理標準』に定める総務局長を委員長とする【省エネルギー推進委員会】をエネルギー管理員、総務サービス部責任者、施設管理委託会社責任者等で構成し、日常管理の徹底と効率的運用に努めています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱 平準化				
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1113) 空気調和設備 の運転管理	空気調和設備・給排気ファンの運用状況を見直し運転時間の削減に努める。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1111) クールビズ・ ウォームビズ の実施	クールビズ・ウォームビズの再徹底と場所・用途に応じた空調温度をさらに見直す。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1111) 電気機器の節電	照明などの電気機器不使用時の節電対応を再徹底する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1113) 照明点灯時間 の見直し	照明点灯時間の見直しと、共用部分の照明減灯を図る。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1111) 就業時間外業 務の抑制	就業時間外の業務を抑制し、個人の省エネ意識の強化を図り、エネルギーの削減に努める。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	本社	コード (1113) 空調用熱源機 器の運用見直 し	吸収式冷温水機と空冷チラーの併用運転により、空調用熱源機器の効率的な運用を図り、エネルギー削減に努める。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	本社	コード (1113) トイレ洗面台 の温水停止	トイレ洗面台に設置の電気温水器を夏期は停止する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	本社 アネックス	コード (1113) ウォシュレット 便座の暖房停 止	ウォシュレット便座の暖房機能を夏期は停止する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	本社 アネックス	コード (1113) ウォシュレット 洗浄水温度の 見直し	ウォシュレット洗浄水の温水温度を最小設定として運用する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	本社 アネックス	コード (1113) 照明器具照度 設定の変更	事務エリア照明器具の調光照度設定を業務に支障のない程度に下げる。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	本社	コード (1218) LED照明器 具への更新	照明器具更新の際、LED型照明器具へ変更する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(2112) 燃料管理の実施	自動車ごとの走行距離、燃料消費量等のデータを記録し、燃料管理を行う。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(2114) 車両の適正な維持管理	日常の点検・整備に関するマニュアルの作成や教育等を通じ、車両の適正な維持管理を行う。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(2123) エコドライブの推進	マニュアルの作成や教育等を行い、環境に配慮した運転に努める。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪市住之江区南港北2-1-10	氏名	アジア太平洋トレードセンター(株) 代表取締役社長 堀田 則雄
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		複合商業施設ビルの管理・運営（飲食・物販店舗、事務所、展示場、駐車場）		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	15,699 t-CO <sub>2</sub>	16,234 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	17,478 t-CO <sub>2</sub>	18,087 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	6.4 %	-3.5 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	6.3 %	-3.5 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>削減率の状況に至っては以下の通り                  指定工場内での市場ニーズの対応(大型店への入居開始によりエネルギー使用量の増加)                  対応策としては以下の通りとする                  大型空調機の運転調整や館内照明の消灯・共用部LED照明器具の採用によりエネルギー削減を継続的に実施する。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

全社的に省エネを推進し、排出量の抑制を図る。(推進体制については「省エネ法」の規定ならびに経済産業省の指導に基づく。)

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	アジア太平洋 トレード センター	コード (1113) 館内空調機の 運転調整	日常管理に支障をきたさない範囲で館内 空調機の運転調整を行う。(運転時間、 設定温度)	27 年度
		人工排熱				29 年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	アジア太平洋 トレード センター	コード (1113) 館内照明の消 灯	日常管理に支障をきたさない範囲で館内 照明の消灯を行う。	27 年度
		人工排熱				29 年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	アジア太平洋 トレード センター	コード (1218) 照明器具 (誘 導灯設備) の 更新	館内全域での誘導灯器具のLED化を行 う。	27 年度
		人工排熱				29 年度
		平準化				
4	レ	GHG排出	アジア太平洋 トレード センター	コード (1113) デマンドの見 直し	契約電力量 : 6,000kW⇒5,900kWに見直し	27 年度
		人工排熱				29 年度
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度
		人工排熱				~
						年度

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪市西淀川区竹島4-11-88	氏名	安治川鉄工株式会社 代表取締役社長 吉田 秀喜
特定事業者の主たる業種		24金属製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		溶融亜鉛鍍金業を行っており、製品には送電線鉄塔、道路関係（標識柱、遮音壁柱）、建築関係の鉄骨材、一般鋼材等をめっきしております。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	5,173 t-CO <sub>2</sub>	4,940 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,403 t-CO <sub>2</sub>	5,177 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (29 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース) 0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース) 3 %	-15.1 %	-10.4 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		- %	-15.3 %	-10.8 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (大阪工場生産重量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>近年生産設備の老朽化等で、ライントラブルによる操業時間内での停機が目立ち、エネルギー効率が悪くなってきている。その中でも積極的にフォークリフト、ボイラーなどの機器を省エネ型に更新を進め、合わせてブローア、スクラバー、集塵機などのインバーター化を進めていき、今後も温室効果ガスの総排出量削減に努めて参ります。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

会社的に取り組んでおり、取締役を委員長として4回/年の委員会を開催し、年度目標、実施項目、使用量の削減、教育について実施している。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	鍍金事業部	コード (1123) コンプレッ サー排熱をボ イラー給水に 利用	コンプレッサーの排熱を蒸気ボイラーの給水の加温に利用し、ボイラーでの使用エネルギーを抑える。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	鍍金事業部	コード (1113) コンプレッ サーの運転管 理	現在4台あるコンプレッサーを必要な台数だけ稼働させ、不必要なコンプレッサーの運転を止める。またインバータータイプのコンプレッサーに機種を替えて、消費電力を抑える。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	すべての事業所	コード (5112) 照明機器をL ED化	非常灯をLEDタイプに交換する。工場内の水銀灯をLEDタイプの物と順次交換する。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	本社事務所	コード (1111) 省エネ推進を 全社体制とし ていく	省エネへの関心の薄い事務所サイドの人員にも積極的に省エネ推進会議に出てもらう	0 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	鍍金事業部 コーティング 事業部	コード (2123) トラック待ち 時間の短縮	入出荷待ちのトラックのアイドリングを減らすため、入出荷時間の短縮を図る。例えば出荷の予約制。ある時間帯に集中しないように台数を予めコントロールする。	27 年度 ～ 30 年度
		人工排熱				
2	レ	GHG排出	本社事務所	コード (2121) 営業車の低燃 費車の導入	順次低燃費車に入れ替えていく	27 年度 ～ 30 年度
		人工排熱				
3	レ	GHG排出	鍍金事業部	コード (2121) フォークリフ トの低燃費車 の導入	順次低燃費タイプの車に入れ替えていく	27 年度 ～ 30 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策




# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市西区北堀江3-10-18	氏名	芦森工業株式会社 取締役社長 瀬野 三郎
特定事業者の主たる業種		31輸送用機械器具製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		自動車用シートベルト・エアバッグ、各種産業用繊維資材、消防用ホース・消火栓ホース、管路補修材の製造		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 19 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	4,298 t-CO <sub>2</sub>	3,146 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,998 t-CO <sub>2</sub>	3,546 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	25.8 %	26.9 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	28.4 %	29.1 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>弊社工場はエアコン電力使用量が約40%を占めている。H28年度は効果の期待度が大きい省エネ対策として、空調室内機70台の洗浄、老朽化エアコン2台を省エネタイプへ更新及び蛍光灯と水銀灯の約60灯をLED化へ更新した。結果は26.9%の削減となった。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

大容量約600Aのヒーターを具備している押出成形機がある。成形に入る前には余熱が必要であり、約10時間程必要である。昼間の電気需要の平準化対策として、24時間体制で余熱の必要のない連続成形を実施している。今の所、頻度は2～3日/月であるがこの体制での省エネ効果検証を進めている。その他、毎年度、3ヶ年の中長期計画を策定し環境ISOの手法を用いて温室効果ガス削減対策と目標を立て、半期毎に見直しながらか計画的に取り組んでいる。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	大阪工場	コード(1216) 老朽化空調設備をインバーター化	老朽化空調機を廃棄(年間4～5台)し、省エネタイプへ更新する。(年間2t-CO2を削減)平成27年度は経営上の問題より次年度へ見送った。	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	大阪工場	コード(1211) ガス燃料ボイラー蒸気の暖房廃棄	ガス燃料のボイラー蒸気による暖房機の廃棄。ガス使用量を削減した。(年間16t-CO2を削減)	27年度～ 27年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
3	レ GHG排出	大阪工場	コード(1218) 蛍光灯、水銀灯のLED化	蛍光灯、水銀灯のLED化。(蛍光灯：年間200～300灯、水銀灯：年間5～6灯)(年間5t-CO2を削減)平成27年度は蛍光灯114灯を交換。(年間0.6t-CO2を削減)	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
4	レ GHG排出	大阪工場	コード(1216) 空調機の室内機洗浄	空調機の室内機洗浄(年間約50～60台)で電気使用量を削減する。(年間3t-CO2を削減)平成27年度は63台を実施(年間3t-CO2を削減)	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
5	レ GHG排出	大阪工場 本社	コード(1111) 空調機の温度管理	空調機の職場毎の温度設定管理(夏場28℃ 冬場20℃)を徹底し、かつ各職場に責任者を決め温度管理をおこなう。(年間1t-CO2を削減)	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
6	レ GHG排出	大阪工場	コード(1125) 押出成形機のヒータ余熱の解消	押出成形機600Aのヒーター余熱時間を極力なくし、24時間体制で連続成形する。平成27年度後半から実施しており、CO2削減量についての検証を進める。	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出		コード		年度～ 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	東京都中央区日本橋本町2-5-1	氏名	アステラス製薬株式会社 代表取締役社長 畑中 好彦
特定事業者の主たる業種		32 その他の製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に医薬品の研究・製造・販売を行っており、大阪府下には9営業所（支店含む）がある。 尚、これまで主な事業所であった加島事業場は平成28年3月末をもって事業場閉鎖を実施した。以降加島事業場でのエネルギーの使用は無くなった。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	15,992 t-CO <sub>2</sub>	424 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	17,099 t-CO <sub>2</sub>	443 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)	
選択	レ	削減率(排出量ベース)	95.6 %	32 %	97.4 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	32.3 %	97.5 %	0 %	
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>主な事業所である加島事業場は、平成28年3月末をもって事業場が閉鎖され、以降エネルギーの使用は無くなった。 その為、エネルギー使用量が大きく削減された。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

加島事業場（特定事業所）では、加島事業場長を推進体制の責任者と定め、その下に環境安全委員会（4回/年）・省エネ推進委員会（1回/2ヶ月）を開催し、社員の省エネに対する意識向上・設備改善検討等を実施している。その他の事業所（特定外事業所）に於いては人事総務担当者会議を定期に開催し、社員の省エネに対する意識向上を図っている。  
 今後もこの推進体制を継続する。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	加島事業場	コード (1114) 蒸気ドレントラップ点検・改修	事業場内の全蒸気ドレントラップ点検及び改修。（年間206t-CO2を削減）	27 年度
	レ	人工排熱				27 年度
		平準化				
2		GHG排出	全事業場	コード (1113) エネルギー使用の適正化	照明のこまめな消灯によるエネルギー消費抑制	27 年度
		人工排熱				30 年度
		平準化				
3		GHG排出	全事業場	コード (1113) エネルギー使用の適正化	冷暖房設定温度の適正化によるエネルギー消費抑制	27 年度
		人工排熱				30 年度
		平準化				
4		GHG排出	全事業場	コード (1199) エネルギー使用の適正化	クールビズの励行によるエネルギー消費抑制	27 年度
		人工排熱				30 年度
		平準化				
5		GHG排出	全事業場	コード (1199) エネルギー使用の適正化	時短推進によるエネルギー消費抑制	27 年度
		人工排熱				30 年度
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	各支店・営業所	コード (2123)	営業活動に使用する車両全車がエコドライブを実施する。	27 年度
	レ	人工排熱				30 年度

(3) その他の抑制対策

--	--	--	--	--	--

# 実績報告書

届出者	住所	堺市中区小阪西町1番1号	氏名	株式会社アスト中本 代表取締役 中本 吉則
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		①一般貨物自動車運送事業・貨物利用運送事業 ②倉庫業 ③通関業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	270 t-CO <sub>2</sub>	239 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	270 t-CO <sub>2</sub>	0 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	11.5 %	11.5 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0 %	0 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>事業環境としては、一昨年来、トラックを増車しております。軽油燃料の使用料も微増し、温室効果ガスの排出量も増えてしまいました。トラック輸送業において、増車は事業発展には欠かせないものでありますが、長距離輸送の減少やアイドリングストップ活動等を継続し、温室効果ガスの減少に向けて取り組みを推進します。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

エコドライブを推進し、ドライバーに対する注意喚起の教育指導を行ないます。					
--------------------------------------	--	--	--	--	--

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		27年度 ～ 29年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	本社営業所	コード (2123) 安全経済走行 への取組み	デジタコを活用した安全経済走行の管理 を継続し、更なる向上を図ります。	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	本社営業所	コード (2123) アイドリング ストップ	駐車中のアイドリングストップ活動を推 進します。	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
3	レ GHG排出	本社営業所	コード (2126) 実車率の向上	復路輸送において、空車にならないよう 帰り荷獲得の営業を強化します。	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
4	レ GHG排出	本社営業所	コード (2127) 積合せ輸送へ の取組み	出来る限り満車で輸送できるよう他社貨 物との積合せ輸送など積載効率の向上を 目指します。	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
5	レ GHG排出	本社営業所	コード (2114) 車輛整備等の 管理強化	運行前点検、並びに車輛整備において、 環境負荷低減に関するチェックポイント を強化します。	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
6	レ GHG排出	本社営業所	コード (2121) 低燃費車輛の 導入	車輛代替時には、低燃費車輛の導入を推 進します。	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市阿倍野区 阿倍野筋1-6-1	氏名	あべのキューズタウン管理組合 理事長 藪内 優典
特定事業者の主たる業種		56各種商品小売業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		あべのキューズタウン管理組合は、区分所有者によって結成され、建物の管理、運営を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	21,260 t-CO <sub>2</sub>	20,420 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	24,076 t-CO <sub>2</sub>	23,113 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.1 %	2.9 %	4 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	2.6 %	4.1 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>熱源機器の効率的な運転、照明の間引き及びLED化を引き続き実施し、来年度も削減に努めます。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

主な取り組みとして、省エネルギーの推進、CO2の削減に関して定期的に状況報告を行い、より効率的な運用を図れる様に情報共有に努めました。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	あべの キューズタ ウン管理組 合	コード (1113) 空調運転管理	パッケージエアコンの設定温度変更 (年間35.4 t-CO2を削減) 設定温度を1~2℃高めに設定	27 年度 ~ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	あべの キューズタ ウン管理組 合	コード (1113) 給排気ファン 運転管理	給排気ファンの間欠運転 (年間11.1t-CO2を削減)	27 年度 ~ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	あべの キューズタ ウン管理組 合	コード (1113) 便座ヒーター 運転管理	大便器便座ヒーターの停止 (年間19.9t- CO2を削減) 6~9月中の3ヶ月間ヒーターを停止	27 年度 ~ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	あべの キューズタ ウン管理組 合	コード (1113) 排水槽バッキ フロア運転管 理	排水槽バッキフロアの間欠運転 (年間40.5t-CO2削減)	27 年度 ~ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	あべの キューズタ ウン管理組 合	コード (1124) 熱源設備の省 エネ化	熱源二次ポンプ省エネルギー制御システ ム導入 (年間27.5t-CO2を削減)	27 年度 ~ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	あべの キューズタ ウン管理組 合	コード (1218) 照明設備の消 灯	照明ランプの間引き及び消灯 (年間46.7t-CO2を削減)	27 年度 ~ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	あべの キューズタ ウン管理組 合	コード (1113) 給排気ファン 運転管理	給排気ファンの停止(年間33.8t-CO2を削 減)	27 年度 ~ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	あべの キューズタ ウン管理組 合	コード (1218) 照明設備LE D化	共用部照明器具をLED照明へ変更 (年間46.9t-CO2を削減)	27 年度 ~ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1		GHG排出		コード		年度 ~ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策




# 実績報告書

届出者	住所	大阪市阿倍野区阿倍野筋 3-10-1-100	氏名	あべのベルタ管理組合施設部会 施設委員長 金田 知博
特定事業者の主たる業種		95 その他のサービス業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		物販、飲食、事務所、スポーツのビル内共同運営		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	3,712 t-CO <sub>2</sub>	3,070 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,104 t-CO <sub>2</sub>	3,388 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (27 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース)	3 %	17.5 %	17.3 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	17.5 %	17.5 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (床面積)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>例年同様、ガス吸収式の熱源機の使用を計画的に減らせるところまで減らし、ターボ冷凍機をできるだけ使用した。自動で制御すると若干ロスが出るため、目視で手動制御を一部導入した。熱源機を含め、冷却水ポンプや空調機の負荷による廃熱をできるだけ少なくするため、2次側の冷温水ポンプの利用を減らし、なるべく1次側ポンプで循環させる期間を増やし、トータルで削減に努めた。しかし、営業時間の延長や店舗側での負荷の増大が懸念。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

施設部会の予算編成の会議において、省エネ対策について、報告、対策検討を行っております。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	あべのベルタ管理組合 施設部会	コード (1113) 冷暖房の温度と冷温水流量の管理	特に夏場がピークを迎えるため、熱源の温度管理と冷温水の流量の調整を一部自動制御から外した。特に負荷の増える時間帯はターボ冷凍機をメインにガス焚きは止めるようにした。	27 年度 ～ 0 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	レ 人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府門真市上野口町1-1	氏名	株式会社天辻鋼球製作所 代表取締役社長 杉本 美則
特定事業者の主たる業種		24金属製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		転がり軸受用鋼球、各種金属球、各種非金属球の製造及び販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 23 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	16,415 t-CO <sub>2</sub>	16,036 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	18,052 t-CO <sub>2</sub>	17,736 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース) 0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース) 6 %	-2.8 %	-4.9 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-3.1 %	-5.5 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(大阪府内の工場の生産金額)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>温室効果ガス排出量は原単位ベースで増加しているが、総排出量では減らすことができました。 原単位ベースで悪化した理由としては、休日の一部稼働などのため生産効率が悪化したことがある。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

当社は、地球環境の保全を最重要課題のひとつであることを認識しながら、住みよい地球を将来の世代に引き継ぐことを基本理念としており、積極的に環境への取組みを進めております。平成13年3月にISO14001を認証取得し、継続的改善を進めながら今後も地球環境に貢献すべく、活動を行ってまいります。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社工場	コード(1216) 空調設備の高効率型への更新	技術開発室 空調設備の高効率化型への更新 (年間9.4t-CO2を削減)	28年度
	レ	人工排熱				28年度
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	本社工場	コード(1218) 照明設備の省エネ型への更新	ブリケット工場 照明設備の省エネ型への更新 (年間1t-CO2を削減)	27年度
	レ	人工排熱				27年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	本社工場	コード(1216) 空調設備の高効率型への更新	27工場 空調設備の高効率化型への更新 (年間3t-CO2を削減)	27年度
	レ	人工排熱				27年度
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	本社工場	コード(1218) 照明設備の省エネ型への更新	26工場 L2室照明設備の省エネ型への更新 (年間16t-CO2の削減)	28年度
	レ	人工排熱				28年度
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	本社工場	コード(1218) 照明設備の省エネ型への更新	本館事務所 照明設備の省エネ型への更新	29年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社工場	コード(2122) ガソリン使用量の削減	外出時には、可能な限り鉄道などの交通機関を利用し、車の使用を控える。また、車の更新時には、低燃費車を導入する。	27年度
	レ	人工排熱				29年度

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府中央区平野町1-3-7	氏名	荒川化学工業株式会社 取締役社長 谷奥 勝三
-----	----	----------------	----	---------------------------

特定事業者の主たる業種	16化学工業
-------------	--------

該当する特定事業者の要件	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">レ</td> <td>大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者</td> </tr> <tr> <td></td> <td>大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者</td> </tr> <tr> <td></td> <td>大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者</td> </tr> </table>	レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者
レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者						
	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者						
	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者						

事業の概要	<p>主に、製紙用薬品、インキ・塗料・粘接着剤用樹脂の製造および販売を行っており、全国で6工場と6ヶ所の営業拠点が有ります。大阪府内には、大阪工場（研究所を含む）、本社 が所在しています。</p> <p>鳴野倉庫は、平成23年度より使用していないため、除外しています。</p> <p>方玉寮（独身寮）は住居なので、対象外とします。</p>
-------	---

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	9,000 t-CO <sub>2</sub>	8,842 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	9,481 t-CO <sub>2</sub>	9,326 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)	
選択	レ	削減率(排出量ベース)	8 %	5.4 %	1.8 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	5.2 %	1.7 %	0 %	
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>平成26年度比で、CO<sub>2</sub>は1.8%減少に留まり、平成27年度より悪化している。この理由は平成28年度に起こった設備異常により、長期間に亘って製造品種の制約があった影響で、エネルギー効率の悪い生産が続いた事による。設備更新により現在は通常の体制に戻っている。平成29年度は平成27年度並、もしくはそれ以上の削減が期待できる。種々の省エネ施策も実施中で削減率目標の8%を目指していく。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

全社的に環境マネジメントシステムを運用して温暖化対策に取り組んでいる。  
 大阪府内において温暖化効果ガス排出の98%を占める大阪工場（研究所含む）はISO-14001の認証を取得している。  
 本社については、自社版の環境マネジメントシステムを運用している。

省エネ法に基づき省エネ推進体制として、本社の品質環境保安室を事務局とし、各事業所に1名ずつの担当者を置き、3ヶ月ごとに対策の進捗状況を収集し管理を行っており、本体制を継続していきます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱 平準化				
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1218) LED導入	防爆水銀灯をLED等の省エネタイプに更新 実績…拡大中。	0年度
		人工排熱				0年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1199) 事業統合	事業統合による大阪府域での生産減少 …H28年度は実績化できず。H29年度より実績化予定。	0年度
		人工排熱				0年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1199) 焼却炉稼働減	焼却炉稼働減少による温室効果ガス減少 実績…継続して実施中。処理量減少によりCO2発生量も減少。	0年度
		人工排熱				0年度
		平準化				
4	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1122) 保温強化による放熱ロス削減	断熱性の良いパイロジェル保温材による放熱ロス削減 …H27年4月より継続して実施。	0年度
		人工排熱				0年度
		平準化				
5	レ	GHG排出	本社	コード(1199) 事務所の統合、室内クーラーの縮小	・別館事務所2室(約10名)を本館に移設し、エアコン・照明等集約 ・電算室縮小、クーラー付サーバラック導入による室内クーラーの削減・小型化 実績…H27年4月実施済み。実績化継続	0年度
		人工排熱				0年度
		平準化				
6	レ	GHG排出	本社	コード(1218) 照明のLED化	本館の主要な照明をLED電灯に入れ換え 実績…H26、秋に実施済み。実績化継続。	0年度
		人工排熱				0年度
		平準化				
7	レ	GHG排出	研究所	コード(1215) 機器を省エネタイプに更新	プリンター複合機を省エネタイプに更新。 実績…H27年に2台更新済み。(実績化継続) 更にH28年度に2台更新済み。	0年度
		人工排熱				0年度
		平準化				
8	レ	GHG排出	研究所	コード(1122) 空調機室外機清掃	電気、ガス空調室外機の定期清掃 実績…H27年6月に清掃。H28年6月に清掃。	0年度
		人工排熱				0年度
		平準化				
9	レ	GHG排出	研究所	コード(1215) 機器を省エネタイプに更新	窒素発生装置を省電力型に更新 実績…H27年11月に更新。実績化継続。	0年度
		人工排熱				0年度
		平準化				
10	レ	GHG排出	研究所	コード(1215) 機器を省エネタイプに更新	H28年度追加対策として、恒温室の空調を省電力型に更新。 実績…H29年3月に更新。	0年度
		人工排熱				0年度
		平準化				
11	レ	GHG排出	研究所	コード(1218) 照明のLED化	H28年度追加対策として、主要照明のLED電球に入れ替え。 実績…H29年3月に交換。	0年度
		人工排熱				0年度
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社 (物 流)	コード (2299) 物流網の再構 築。	生産拠点集約化により大阪地区からの 出荷回数が削減される。 …H27年度生産拠点集約のため、試作製 造実施。H28年12月に生産拠点集約完 了。	0 年度
		人工排熱				～
						0 年度

(3) その他の抑制対策




# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市西淀川区中島2-7-48	氏名	荒木運輸株式会社 代表取締役社長 荒木 靖郎
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		常温、低温、冷凍商品の輸送及び保管、通関業。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	7,855 t-CO <sub>2</sub>	7,222 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,137 t-CO <sub>2</sub>	7,510 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	2 %	20.6 %	8.1 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	19.8 %	7.8 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>車両の動態管理システムを利用して速度超過やエンジン回転数オーバーの管理をタイムリーに行う。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制


(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	大阪主管店	コード (2123)	車両の動態管理システムを導入し、速度超過やエンジン回転数オーバーをタイムリーに注意指導する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	東大阪CFセンター	コード (2123)	車両の動態管理システムを導入し、速度超過やエンジン回転数オーバーをタイムリーに注意指導する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				

(3) その他の抑制対策
